

「あこがれの自分を目指して ～共に歩む！一人でも翔ぶ！～」

平成29年度 柳津町立西山中学校

# 学校だより

平成29年12月15日(金)発行 第 34 号 発行責任者:高橋 弘悦

## 人権作文コンクールで奨励賞受賞

法務省主催、人権作文コンクールで、本校から応募した金子天斗くん、渡部未蘭さんの2名の作品が、若松人権擁護委員協議会奨励賞に選ばれ、14日校長室にて表彰式が行われました。

人権作文コンクールは、昭和56年度から行われており、次世代を担う中学生が人権問題についての作文を書くことによって、人権尊重の重要性、必要性についての理解を深めるとともに、豊かな人権感覚を身につけることを目的として全国規模で行われるコンクールです。本年度の大会で37回目を迎えました。



## 西山小中合同下校訓練実施

ご協力ありがとうございました

14日、西山小中合同下校訓練を実施しました。数年前の下校訓練では、実際に猛吹雪に見舞われ、訓練ではあったものの無事下校できたかどうか心配される状況になったことがあります。西山地区では欠かせない訓練です。

今回の訓練では、各通学区のまとめ役である中学生が下級生をしっかりと引率し、下校確認の電話もしっかりなされていたとの報告がありました。意識の高さがうかがわれます。



### 21日は交流会

21日には第4回目となる柳津中学校との交流授業を実施します。今回はスポーツ交流を通して、両校の親睦を一層深めるのがねらいです。

午前中は合同の授業、午後には1学期に行ったのと同様のスポーツ交流となります。ご協力よろしく願います。



# やりきる経験大切に

「あの坂をのぼれば、海が見える。」

ふとこんなフレーズが頭をよぎりました。突然の大雪で、いつ終わるかもしれない雪かきの記憶がよみがえったからでしょうか。

「あの坂をのぼれば、海が見える。」については国語の教材として教わったような記憶があります。杉みき子さんによる詩です。ゆっくり読んでも5分ぐらいのものですが、かなり奥深い内容です。



幼い頃に「あの坂をのぼれば、海が見える。」と教えられた少年は、朝から歩いて海を見に行こうとします。しかし、歩いても歩いても、いくら峠を越えても目の前には新たな坂が立ちはだかるばかりで、一向に海が見えてきません。

——あの坂をのぼれば、海が見える。

しかし、まだ海は見えなかった。ほうようにしてのぼってきたこの坂のゆくても、やはりいままでとおなじ、はてしない上り下りのくりかえしだったのである。

諦めかけながらも何とか歩き、最後にやっと潮騒を耳にするというところで話は終わります。

白い小さな羽根をてのひらにしっかりとくるんで、ゆっくりと坂をのぼってゆく少年の耳に——あるいは心の奥にか——かすかなしおざいのひびきが聞こえはじめていた。

初めて読んだ時は、うまく行かないことが次々と頭を過り、なにか重苦しさを感じたものです。しかし「あの坂をのぼれば、海が見える。」というフレーズがずっと頭から離れませんでした。「投げ出さずにやり切れればきっといいことがある」そんな希望を感じていたんだと思います。

間もなく2学期が終わり、冬休みに入ります。この冬休みには、生徒に坂の上から見える海を見せてあげたいと思っています。一步一步を進めていけば、いつかは海の見える頂にたどり着ける…。このことを実感してもらうために、宿題は極力抑え、「やりきる」充実感を味わって欲しいと思っています。冬休み明けのテストでは、「やりきった」成果を十分に味わってもらい、さらにその先にある大きな海を目指す意欲を培ってもらいたいと思います。

## 「あの坂をのぼれば」

杉みき子

.....

あの坂をのぼれば、海が見える。

少年はもう一度、力をこめてつぶやく。しかし、そうでなくともよかった。今はたとえ、このあと三つの坂、四つの坂をこえることになろうとも、必ず海に行き着くことができる、行き着いてみせる。

白い小さな羽根をてのひらにしっかりとくるんで、ゆっくりと坂をのぼってゆく少年の耳にあるいは心の奥にかかすかなしおざいのひびきが聞こえはじめていた。